

ふる～ぶ

吉野川ファン通信

VOL.109
2009/3



「ふる～ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

1 page [特集] 吉野川アラカルト

貞光川流域探訪
つるぎの達人とめぐった巨樹の里
つるぎ町を愛し、さまざまな魅力を案内する
「つるぎの達人」と巨樹の里を訪ねました。

3 page 過去から未来へ
NPO法人 江川エコフレンド 副理事長
瀬尾 規子さん

4 page ふる～ぶ編集部がおじゃましま～す!
伊沢小学校の巻
阿波ナスをプロデュースしよう!

5 page ふる～ぶめいと通信
吉野川 川の便り
江戸絵画に見る吉野川風景

6 page 源流域からの便り
第9便

ふる～ぶ INFORMATION
旧吉野川と今切川のボタンウキクサ駆除に
みなさんのご協力をお願いします!!

7 page よりよい吉野川づくり<第46回>
吉野川水系河川整備計画【原案】について
公聴会を開催

ふる～ぶひろば
編集後記・プレゼント



貞光川流域探訪 つるぎの達人とめぐった 巨樹の里

美馬郡つるぎ町一字の丸笹山付近を源流とし、つるぎ町内を北流し吉野川に注ぐ全長25.3km、流域面積約140km²の吉野川の支流貞光川。四国のみずべ八十八カ所にも指定されている土釜や鳴滝も貞光川の流れがうんだ自然の造形美です。

貞光川流域のつるぎ町は、巨樹の里や二層うだつの町並みがあることで知られています。平成19年秋に徳島県で開催された「おどる国文祭」をきっかけに、つるぎ町のさまざまな魅力を案内する「つるぎの達人」が誕生し、30歳～80歳代までの33人のみなさんが、現在も定期的に活動を続けています。今回は地元つるぎ町を愛する「つるぎの達人」と巨樹の里を訪ねました。



土釜



一字地区



巨樹の里つるぎ町。
一字の入り口、土釜
トンネルの横に立っ
てある看板。

巨樹の里つるぎ

つるぎ町一字は全国的にも有数の巨樹の里です。町内には100本の巨樹があり、国の天然記念物に指定されている日本一の赤羽根大師のエノキをはじめ、四国一のトチやアカマツの他、ヒノキ、モミ、エゾエノキなど、多くの天然記念物に指定された巨樹が点在しています。

今回は途中で貞光川も眺めながら、「つるぎの達人」石井孝代さんに土釜をはじめ「赤羽根大師のエノキ」や「白山神社のモミの木」などを案内していただきました。エノキは、大師堂が建立されていることから「赤羽根大師のエノキ」と呼ばれ親しまれています。幹周8.7m。樹齢推定800年。深

い緑色。近づくと堂々とした姿で、しばらくの間見とれてしまいました。

白山神社のモミの木は幹周6.5m、樹高38m。樹齢推定400年。モミの木といえばクリスマスツリーを想像しますが、県の天然記念物に指定されたのが、偶然にも平成11年12月24日のクリスマス

イブだったというエピソードがあります。

それぞれの巨樹にさまざまないわれや、魅力があり、巨樹をそばで見ているだけで、数百年という時の流れに思いをはせることができます。



赤羽根大師のエノキ。向かって左下に人が立っています。
大師堂周辺に紅白ののぼりが立てられ、住民の方々が交代で大師とエノキを守っています。

この人インタビュー

「つるぎの達人」 石井孝代さん

「この自然はつるぎ町の宝物ですよ」と話してくださった石井さん。達人になろうと思ったきっかけは、平成17年に福井県で開催された国民文化祭で、参加者の応援に行き、福井県みなさんに、温かいおもてなしを受けたことでした。「いつか徳島で国文祭が開催されたら自分も参加して全国からくる方々を迎えよう」と思い、そしてその願いは叶うことに。徳島でも国文祭が開催されることになり、つるぎの達人が募集され、すぐに申し込みをしました。開催の1年前から研修を受け、本番に備えた達人のみなさん。生まれ育った地元半田町についてはよく知っていたそうですが、合併する前は、



「実は、一字にはこんなにたくさんの巨樹があることも知らなかったんです。同じ巨樹を案内していても、雨、曇り、晴れの日で全然違うし、気候によって巨樹や周りの景色も変わる。巨樹に行くとほっとするし、気持ちも落ち着いてくるんです。貞光川もきれいだし。土釜や鳴滝を案内してもすごく喜んでもらえるんですよ。」

白川神社のモミ。周囲の木々と競い合っているかのように生えているので、下からしか写真が撮れない。その姿は崇高さを漂わせている。巨樹の幹周りは環境省の基準により、地上から1.3mのところを計測するきまりとなっているそう。

隣町であった一字や貞光については知らない事も多く、より深く知る機会となったそうです。

達人になってから、つるぎ町がさらに大好きになりました」とも。赤羽根大師のエノキに行ったときには「鎌倉の大仏と同じ大きさですよ」や、白山神社のモミの木を訪ねた時には「高さは38m。ウルトラマンと同じ高さなのですよ」と、笑顔で分かりやすい説明が印象的でした。「これからも一人でも多くの方々につるぎの良さを知ってほしいし、案内を続けていきたい」と話してくださいました。



運営会議

つるぎ町では、つるぎの達人の案内により「つるぎクラブツアー」が定期的に行われています。巨樹めぐりや、お花見、二層うだつをめぐるツアーなど、どれもつるぎ町の魅力が満載。取材に行った日は「つるぎの達人」により、今後の予定や発行しているプログラムの案内の編集について会議が行われていました。

巨樹を見に行く順番、地元の温泉に立ち寄る時間帯、開催時期、おもてなしをお願いするなど、真剣な話し合いが行われ、春にむけてのイベントの内

容の大枠が決定しました。会議に参加していた兼西明さんは定年退職後、つるぎ町に40年ぶりに帰ってきたUターン組。つるぎ町の魅力は「人間性と自然」と語っていました。前田恵子さんも「山、川、人情があるところ。自分自身が初めて巨樹を訪れた時の感動を一人でも多くの人に感じてほしい」と話していただきました。つるぎの達人のように情熱を持ったみなさんがいらっしゃるからこそ、リピーターが増え、活動も定着していくんだなと感じました。



会議の様子



「つるぎの達人」兼西明さんと前田恵子さん。

今後の予定

4月上旬には、天日のエドヒガンサクラや、赤羽根大師のエノキ、吉良のエドヒガンサクラなどを巡る「巨樹の里のお花見ツアー」や、様々な巨樹を巡る「定番巨樹ツアー」などを開催する予定です。

つるぎの達人やつるぎクラブツアー問い合わせ先

つるぎ町役場 地域創造課 つるぎの達人 TEL:0883-62-3114

問い合わせ時間 平日8:30~17:00(申し込みはハガキかインターネットのみ)

つるぎクラブ HP:<http://www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp/kokubunhome/index.htm>

つるぎクラブ

検索



天日のエドヒガンサクラ
(写真提供:つるぎ町役場)

過去から 未来へ

ふる～ぶが100号を迎えた記念の年として、
取材した方々に再登場していただき、お話を伺っていきます。



江川は私たちの宝物

NPO法人江川エコフレンド
副理事長
瀬尾 規子さん



毎月1日に開催される清掃活動

江川は吉野川市鴨島町西知恵島を源流とする吉野川の支川のひとつです。江川の湧水は、夏は水温が10度前後に下がり、冬には水温が20度前後に上昇する異常水温と呼ばれる現象が有名で、環境省の名水百選にも選定されています。江川の水源を守り、流域の清掃活動をはじめとするさまざまな

活動を行っているのが、平成12年8月に誕生したNPO法人江川エコフレンド(理事長: 岸田益雄さん)です。ふる～ぶには平成13年6月号(VOL. 16)に瀬尾規子さん(当時は会長)に登場していただきました。平成17年1月にNPO法人化され、元旦以外の毎月1日に開催してきた江川の清掃活動も平成21年3月1日で第100回目を迎えます。「毎月1日だとみんなが覚えやすいでしょう。朝の6時半～7時半まで。冬は7時から7時半まで。学校や仕事が始まる前に参加できる時間帯です。大雪や雨の日もあったし、台風で順延になった時もありますが、清掃が中止になったことはないです。自分の住んでいる町だもの。やらなきゃ」と瀬尾さん。今まで一度も1日清掃活動を休んだことはありません。江川のすぐそばで生まれ育ち、子どもの頃には魚をとったり、めだかをすくったりとたくさんの思い出があります。江川の夏の冷たい水は気持ちよくて、その冷たさは今でも忘れられないそうです。

だんだんと清掃活動をするメンバーも増え、子どもから大人まで毎月、100人以上が年齢、性別、職種も関係なく江川をきれいにしようという思いで参加しています。平成16年から地元の鴨島第一中学校の生徒も活動に参加し、平成20年11月1日の清掃活動で鴨島第一中学校の生徒さんだけで通算3000人を超えました。

この日はちょうど土曜日だったということもあり、朝食代わりに「芋

煮会」を行い、中学生と会員との交流の場も設置されました。また、毎年5月の第三日曜に開催されている「最後まで残った空海の道ウォーク」での飲み物のお接待、地元、吉野川市鴨島町開催のイベントでのごみステーション設置、講演会や環境に関する映画の上映会実施など、活動も多岐にわたっています。



空海の道ウォークでのお接待

江川エコフレンドのみなさんの思いは「子どもたちに江川の良さを伝え、残していきたい」ということ。「冬の温かい水温で早朝にもやが立ちこめたりする風景は幻想的。365日魅力がある江川は、住民の宝物です。とにかく私、江川が大好きなんよ」と話してくださった瀬尾さん。これからも江川を愛するみなさんによって活動が続いていくことでしょう。



吉野川一斉清掃作業後に開催したそうめん流し



吉野川流域一斉水質調査にも参加



冬の早朝に見られる江川の朝もや

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!



吉野川を望み、国の天然記念物である阿波の土柱もすぐ近くにある阿波市伊沢小学校。この学校で、昨年1年間をかけて、6年生29名が『阿波ナスをプロデュースしよう!』と地域の農産物である阿波ナスについて学びました。

そのきっかけのひとつに、農林水産省が進めている教育ファームがあります。これは、農林水産省で進めている農業、漁業の作業体験を通じて、自然の恩恵や食にまつわるさまざまな活動への理解を深めようという取り組みです。伊沢小学校では、その参加にあたって地域とのかかわりをテーマに、地元で阿波ナスを育てている農家が多く、徳島県を代表する野菜のひとつである阿波ナスをテーマに取り組むことにしました。このように、地元を代表する野菜である阿波ナス。でも学校でアンケートをとったところ、ピーマン、しいたけと並んで嫌いな野菜ベスト3のひとつ! いかに、子どもたちがナスを愛するようになるのかも課題のひとつでした。

取り組みの内容は、学校園でナスを植えることから始まり、農家の見学や、JAの選果場の見学。6班に分かれてのレシピ作りや、開発したレシピを実際作って試食する調理実習、販売に向けてのキャラクター作りなど多岐にわたっています。実際にナスを植えた子どもたちは、ナスは植えたらどんどん成長して食べられるのではなく、途中でわき



阿波ナスイメージキャラクター 阿波ナッス

芽を摘まなくてはならないこと、ナスは水で育つ作物といわれていて、たくさんの水が欠かせないことなどを知りました。また、選果場では、阿波市内から集められているナスの多さ、そして、農家の方がすばやくナスを大きさに分けている様子にびっく

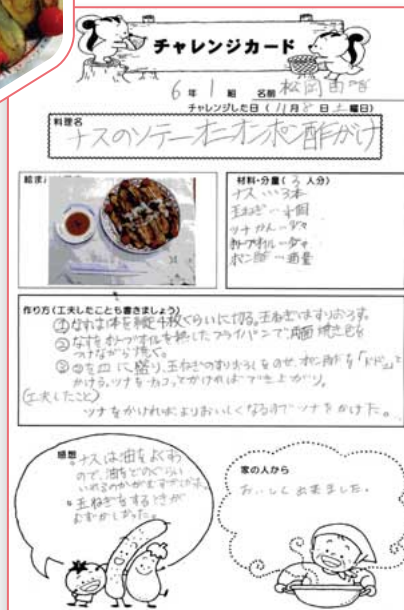
阿波ナスをプロデュースしよう!



ナスの定植



ナスのソーテーオニオンボン酢がけ(左)とそのレシピ(下)



りしたりと、どんどんナスに近づいていった子どもたち。これらの経験を経てのレシピ開発や、キャラクター作り。ナスは食べやすい。ベーコンにも合う。油に合う。いろいろなことに気がつき始めた子どもたちは、家庭の味も生かしながらいよいよメニュー

を開発しました。指導を担当なさっている日岡先生によれば、「レシピを持って帰って、熱心につけている子もいるようです」とのこと。学習を終えての野菜の好き嫌いのアンケートはとっていませんが、「ナスが好きになった子が多いんじゃないかなあ」ともおっしゃっていました。

この学習を通じて、すばらしいナスを育てている人々に出会い、尊敬とお世話になった感謝の気持ち。多くのことを教えていただいたことは、子どもたちにとって、すばらしい財産となったようです。

今年もまた、4月から新6年生が阿波ナスの学習に取り組みます。「昨年の学習では時間がなくて、できなかったナスの販売に取り組みたい」とおっしゃる日岡先生。生産者の気持ち、そして消費者の気持ちもわかる子どもたちが作った伊沢小ブランドのナス。なんだか食べてみたい気がします。

(写真・資料提供:伊沢小学校)

ナスの手入れ



ナス農家



「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと
レポート

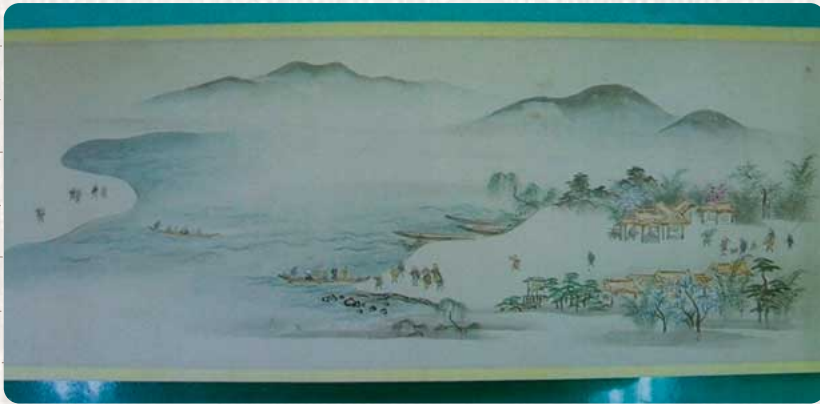
吉野川 川の便り 江戸絵画に見る吉野川風景

徳島市 山地 武彦さん

徳島市立徳島城博物館所蔵、徳島市指定文化財「養性軒十六詩」と云う絵巻物がある。

箱書きに、書蹟 赤井得水 画工 佐々木信照の墨書がある。

養性軒は、蜂須賀藩士の別邸であるが吉野川近辺というだけで、場所の特定はできていない。



この絵巻物は、享保8年(1723)の作で、漢詩が先で、
絵画は後になっている。

左端の小屋は、触書の高札場、何が書かれているのだ
ろう。

この絵に描かれている古川渡しは、現在の吉野川橋
のすぐ上流に位置し、両岸に「史跡 古川舟渡し跡」の
碑が設置されている。古川の渡し場は淡路街道 上往
還の渡し場として、人々の往来も多く城下に入る重要
な場所であった。

その奥の茶店では、一休みする旅人二人と電かまどの前で
接待する女主人。鷹匠は、鷹を肩に乗せ、もう一方では
鷹が羽を大きく広げている。追手の犬を連れ、竿を持
つ男達。

絵の中央部。着岸寸前の舢はしには、粋に着流した男女
の立待ち姿、その後に老女と娘御が座り、すげ笠の町人
が立って、その前に丸笠の僧が座り、船頭は櫓を止めて
両足を踏ん張り、今まさに舟を砂浜に乗り上げようと
している。後便の舟も、六人を乗せて川の中央まで漕ぎ出
し、左の岸には刀を差した二人、魚籠を担いだ男など、
少し離れて飛脚が次の便を待っている。

奥の小屋の裏手に咲く梅の花、新緑に萌える川柳と
松林に竹林。岸に舳はしう三艘の舟。波たつ川面。写実画
というより、今風にいう渡し場の風景写真である。

一方、舟のついた岸边には、帰り便に乗るべく待つて
いる町人風の男など。話ながら寄ってくる武家と四人の
供侍。待てといっているのか、手をあげて走り寄る侍。

さて、この絵は左岸右岸どちらだろうか、当時地名は
両岸とも古川だった。

「養性軒十六詩」は、徳島城博物館の企画展、特別
展で公開されることがある。同館発行「わがまちのた
からもの徳島市の指定文化財」「藩主の歩いた道」に
一部分掲載されている。

古川舟渡しは、国土交通省徳島河川国道事務所発
行「吉野川の渡し」に掲載されている。



源流域からの便り

第 9 便

このコーナーでは、吉野川源流域に住む方々に暮らしや四季のうつろいを、綴っていただきます。

私は、2007年に有機のがっこう「土佐自然塾」を卒業し、現在は高知県長岡郡大豊町に約50アールの畑を借りて、有機無農薬で40数種類の野菜作りをしています。

畑は梶ヶ森山系のほぼ中腹、標高約700メートルにあり、夏の渇水時や冬の少雨時でも涸れることのない、美しい谷の水がふんだんに使える素晴らしい環境に恵まれ、そんな中で野菜たちが育てられることに感謝しています。

有機無農薬農業は、微生物の働きによって成り立っていますが、環境にダメージを与えないばかりか、環境汚染を浄化することができます。

山の住民は草のことを肥と呼び、畑や田んぼの周りの草を刈り、落ち葉を集めて土に還す「堆肥づくり」をすることを自然にしてきました。それは、化学肥料や化学農薬ができる前は当たり前だったことでもありません。

堆肥には温室効果ガス(メタン)の排出を抑制する働きがあり、



更に二酸化炭素の削減能力が森林の5倍もあります。温室効果ガスの1つである二酸化二窒素の発生原因は化学肥料にある、という研究結果も明らかになっています。二酸化二窒素は二酸化炭素の300倍(メタンは21倍)の温室効果になるんだそうです。

しかし、残念な事に過疎高齢化で休耕田が増え、さらに追い打ちをかけるように減反政策が続いています。

畑や田んぼが浄化元になり、川や海に至るまで、広くは地球環境までよくなれば素晴らしいことだと思います。

微力ではありますが、農業を生業として続けていく事にも誇りを感じますし、この輪が少しでも広がることを願っています。



問さんが育てた野菜

はざま農園

問浩二さん

土佐町にある高知県と地元NPOの協働事業である「有機のがっこう」で有機農業を学ぶ。その後大豊町にて有機農業に取り組んでいる。



ふるぶ3姉妹のInformation

旧吉野川と今切川のボタンウキクサ駆除にみなさんのご協力をお願いします!!

平成20年は洪水が無く降雨も少なく水温も高かったせいか、旧吉野川、今切川やその支川でボタンウキクサ(特定外来生物)が大量発生し、河口堰に流れつきました。そのため治水や河川利用に影響をおよぼさないよう、国土交通省等では駆除作業を行いました。この大量発生を防ぐためには、冬場に枯れず生き残ったボタンウキクサを確認し早期に駆除することが最善の策と思われます。

普段河川敷を散歩するなどして河川を利用した際、ボタンウキクサを見かけた場合は確認情報を教えていただけないでしょうか。ご協力をお願いします。



ボタンウキクサ

- ・別名:ウォーターレタス
- ・サトイモ目 サトイモ科
- ・特定外来生物に指定
- ・アフリカ原産で繁殖力が極めて旺盛
- ・冬の平均水温が12℃程度なら枯れずに冬を越すことができる



旧吉野川河口堰上流の状況
(H20.10.10時点)



駆除作業状況

◆外来生物、特定外来生物について.....

外来生物とはもともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって外国から入ってきた生物のことを指します。その中でも特定外来生物とは「飼育」、「栽培」、「保管」、「運搬」、「輸入」等が禁止されます。違反内容によっては懲役もしくは罰金などの罰則が課せられます。詳しくは環境省HPをご覧ください。

URL:<http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/law.html#law2>

◆提供していただきたい情報.....

- ・ボタンウキクサの確認場所、日時
 - ・温かい水が流れ込んでいる場所
- ※対象とする範囲は旧吉野川、今切川及びその支川(徳島市、鳴門市、松茂町、上板町、板野町、藍住町、北島町)です。

情報
求む



問い合わせ先

国土交通省 徳島河川国道事務所 河川環境課
〒770-8554 徳島市上吉野町3丁目35
HPアドレス:<http://www.toku-mlit.go.jp/>
電話:088-654-9176
FAX:088-654-9170
Email:tokusa64@skr.mlit.go.jp

徳島県 河川課
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
HPアドレス:<http://www.pref.tokushima.jp/>
電話:088-621-2571
FAX:088-621-2870
Email:kasenka@pref.tokushima.lg.jp

独立行政法人 水資源機構 旧吉野川河口堰管理所
〒771-0144 徳島県徳島市川内町榎瀬841番地
HPアドレス:<http://www.water.go.jp/yoshino/qyoshino/>
電話:088-665-1435
FAX:088-665-1374
Email:kyuyoshi@mbs.sphere.ne.jp

吉野川水系河川整備計画【原案】について公聴会を開催

平成20年12月24日(水)に吉野川水系河川整備計画【原案】を公表し、この【原案】に関して、意見をお聴きするために、平成20年12月26日(金)～平成21年1月23日(金)の期間において公述人の募集を行いました。

その結果、

- 吉野川流域内の市町村にお住まいの方の意見
- 意見要旨及びその理由が原案の内容に関するもので、論旨が明確な意見
- 上流域、中流域、下流域、それぞれの流域内の幅広い意見(多様性や地域性)

を考慮し、下流域(徳島市)会場10名、中流域(美馬市)会場9名、上流域(高知県)会場4名が選定されました。

下流域(徳島市)会場

日時 平成21年2月14日(土) 13:00～16:20

場所 徳島県建設センター(7F 鶴の間)

公述人 10名

傍聴人 103名



公聴会には10名の公述人が出席し、意見を述べられました。各自持ち時間15分以内でそれぞれが提出した公述希望届出書に記載した内容を基に、吉野川における治水、利水、環境など様々な意見が発表されました。

中流域(美馬市)会場

日時 平成21年2月15日(日) 13:00～15:20

場所 四国三郎の郷 交流体験棟

公述人 7名

傍聴人 54名



公聴会には7名(公述予定9名、内2名は当日欠席)の公述人が出席し、意見を述べられました。各自持ち時間15分以内でそれぞれが提出した公述希望届出書に記載した内容を基に、吉野川中流域の無堤地区における堤防整備など地域に関する意見を中心に発表されました。

今回の公聴会で発表された内容、配布資料等は吉野川河川整備計画のホームページにて公表しています。

*上流域(高知県)会場は平成21年2月22日(日)に土佐町保健福祉センター(高知県土佐町)で開催予定(平成21年2月15日現在)

【原案】に関するご意見(パブリックコメント)をはがきまたはインターネット等により募集しています(平成21年3月15日まで)。吉野川河川整備計画のホームページもしくは、吉野川流域の国土交通省及び関係機関・市町村等の窓口に設置している「ご意見募集チラシ」をご参照ください。

ホームページアドレス <http://www.yoshinoriver.info/>

ふる～ぶ編集後記



3月。吉野川も春の芽吹き季節。さまざまな植物ができています。そのなかでも、編集部が好きなのがよぎです。おなじみのおだんごや、さっとゆがいて少量の塩とともにご飯にまぜたよぎご飯もおいしいですよ。(か)



巨樹をめぐっていると、自然から元気をもらえるような気がします。真光川もとてもきれいでしたよ。日本有数の巨樹の里。みなさん巨樹にあいづるぎ町にでかけてみませんか。(や)



フーズー風船プレゼント



ふる～ぶめいとリーダー長江順次さんが吉野川の竹を使って作った昔懐かしのフーズー風船を抽選で2名様にプレゼントします。(お一人さま1個ずつ)ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえ応募ください。締切は3月27日(金)です。発送の際には風船の色が写真と違う場合もあります。

プレゼント応募先 〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部「フーズー笛」プレゼント係



ふる～ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読ください。